(蚕試 養蚕経営部)

### 1. 背景とねらい

繭解じょの優劣は、蔟中管理の環境特に上蔟後吐糸開始から終了までの上蔟4日間の環境が重 要であることが明らかにされており、この時期の蔟中管理改善技術については普及現場で既に取 り組まれていることである。

しかし、県内における繭検定成績を見ると蚕期による差が大きく、このことは上蔟室内の環境が 外気象の影響を受け湿度が高くなるため、結果として改善成果として現れていない。

平成5年度繭検定法が改正され、繭価決定要因として繭解じょが大きなウエイトを占めること から、解じょ率向上技術の開発が求められている。

そこで、岩手県繭検定所の試験繰糸における部位別落繭調査データを用い、外層(厚皮)、中 層(中皮)、内層(薄皮)について、それぞれ上蔟後吐糸開始から終了までを前期(外層)、中 期(中層)、後期(内層)に分け、時期別に不良環境に遭遇させることにより、どの時期の不良 環境が解じょに影響するか検討したので参考に共する。

### 2.技術内容

- 1)上蔟4日間における時期別不良環境は高温多湿環境下においてその影響が大きい。
- (1) 蔟中温度が30℃では湿度が高くなると必然的に解じょ率は低下する。特に中期(上蔟後44 ~70hr) に90%の多湿に遭遇すると大幅に低下する。
  - (2) 中期の高温多湿環境は、その後の後期を湿度70%に改善しても解じょ率の向上は少ない。
- 2) 高温多湿環境下では、全期間通して環境改善が必要である。

循環扇及び換気扇による強制送風・換気(風速、1.0~2.5m/秒)を徹底する。

#### 3. 指導上の留意事項

低温環境下での時期別解じょ率は髙温多湿環境下に比べ明確な傾向は出ないが、解じょ率は低 下するので、標準温湿度(22~23℃,60~70%)の保持に努めると共に通風換気を図る。

# 4. 試験成績概要

表1 営繭中密閉時の部位別解じょ率

時期別湿度			温 度 2 0 ℃				温 度 3 0 ℃			
前期	中期	後期	全繭層	外層	中層	内層	全繭層	外層	中層	内 層
70%	70%	70%	83.0%	83.9%	80.0%	85.2%	80.0%	78.4%	78.9%	82.7%
70%	70%	90%	82.0	84.9	75.2	86.0	77.0	76.7	78.8	75.5
70%	90%	70%	87.0	87.1	85.1	88.8	33.0	55.4	19.7	23.9
70%	90%	90%		76.3	78.6	82.1	30.0	46.3	21.7	22.0
90%	70%	70%	85.0	84.9	81.6	88.6	53.0	56.8	40.0	62.3
90%	70%	90%	83.0	83.5	81.1	84.3	52.0	57.6	43.3	55.4
90%	90%	70%	80.0	80.5	78.1	81.3	43.0	50.3	36.9	41.8
90%	90%	90%	78.0	76.9	79.7	77.4	38.0	52.1	25.8	36.0

# 表2 営繭中の時期別送風による部位別解じょ率

時期別湿度		90%	温	温 度 2 0 ℃				::			
前期	中期	後期	全繭層	外層	中層	内 層	全繭層	外層	中層	内層	
送風	送風	送風	85.0%	86.0%	83.3%	85.7%	65.0%	67.4%	63.6%	64.0%	
送風	送風	無風	80.0	79.3	78.8	82.0	34.0	37.5	28.2	36.4	
送風	無風	送風	82.0	83.1	81.5	81.5	27.0	33.3	16.3	31.4	
送風	無風	無風	76.0	76.1	74.5	76.7	27.0	35.3	18.2	27.5	
無風	送風	送風	78.0	78.1	76.8	79.1	29.0	35.6	21.6	29.8	
無風	送風	無風	77.0	77.8	75.6	77.6	41.0	42.0	37.3	43.6	
無風	無風	送風	85.0	83.6	84.6	86.8	32.0	37.2	21.0	37.9	
無風	無風	無風	85.0	85.6		86.4	29.0	35.8	21.8	29.8	